

B.Continue News Letter

Vol.2

発行日:2018年5月1日/発行者:株式会社 B.Continue 代表取締役 島野 廣紀 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目17-25 博多クリエイティブビル5F
TEL.092-473-6231 FAX.092-473-6232 URL: <http://www.b-continue.co.jp/>

～待つ福祉から、攻めの福祉へ～




B.Continueグループは、相談窓口(特定相談支援)、住居(共同生活援助)、学び(就労移行支援)、就労(就労継続支援A型)、一般就労としての雇用に至るまで、包括的にサービスを展開しています。障がい者雇用を「義務ではなく戦力」として捉え、社会貢献につながる「やりがいのある仕事」を提供し、各利用者が個性・適性を活かし自立した生活を送るための支援を行っています。

当ニュースレターでは、当グループ代表の島野廣紀(しまの・ひろのり)と関連企業の担当者や地元福岡に縁のある有識者などとの対談や、組織内外でのイベントの様子、利用者の声などをご紹介します。

第2号では、代表島野が登壇した福祉イベント「北九州フォーラム」の様子をご紹介します。

福祉関係者が約100人集い 意見交換

 018年3月21日(水・祝日)、福岡県北九州市総合保健福祉センターアシスト21にて、福祉事業関係者や福祉を勉強中の学生を対象とした意見交換会「北九州フォーラム

～専門家と支援者でより良い福祉のアイデアを!～(主催:北九州市精神保健福祉センター・戸畑区障害支援ネットワーク協議会・北九州フォーラム実行委員会)が開催されました。当日は「福祉に関わるすべての人が集まり、みんなで地域の今と向き合い、未来について考える」をテーマに福祉事業関係者を中心に約100人が来場しました。

当グループ代表の島野は、午後に行われた三つの分科会の一つに講師として登壇しました。担当した分科会Bのテーマは「企業との結びつきについて」。以下、島野の講演内容およびグループ討議の様子をお伝えします。



定着支援策として長期の 職場体験を推奨 自社の取り組み事例を紹介

島 野はまず、利用者の定着支援(長く働き続けるための支援)について解説しました。「B.Continueグループでは、提携先企業へ利用者のかたが契約社員や正社員として就職し長く働き続けてもらうために、長期の職場体験を推奨しています。提携先企業内で長期的に仕事を体験することで、企業・利用者双方がお互いのことを理解することができる」と自社の取り組み事例を交え、企業と利用者それぞれのメリットなどについても分かりやすく説明しました。

<長期の職場体験を行うことのメリット>

企業のメリット・・・利用者のスキルや仕事内容を長期的に確認することができる。

利用者のメリット・・・四季を通しての労働環境を把握することができるほか、提携先企業の受け入れ体制や連携などを感じることができる。

グループ内企業で 障がい者雇用率80%を目指す

続 けて、障がい者と接する機会の少ない一般企業の人が持ちがちな「障害者＝仕事ができない」という固定概念を取り除くためには、障害者雇用の成功事例を積極的に発信していくほか、福岡県が実施している「障害者応援まごころ企業 認定制度」などのサービスを提案し利用してもらうことが重要だと主張しました。また法定雇用率(※)については、「やりがいを持って働いてもらい戦力としての障がい者雇用を広げていくために、法定雇用率は最低基準と捉え、それ以上の割合を目指していかなければならない。グループ内企業のアステックス九州では、障がい者雇用率80%を目指している」と参加者に熱く語りかけました。

※民間企業の法定雇用率は2.2%(平成30年4月1日現在)

利用者の給料を上げるために 全員で売り上げを意識

ま た、経営者だけでなく、現場で働くスタッフそして利用者も売り上げの意識を持つことの必要性を強調しました。「どれだけいい人材がそろっていても、きちんと運営できていなければつぶれてしまう。当グループでは、毎日各事業所の収支報告をメールで全社員へ共有するなど、数字の見える化を推進している。それによって毎日の売り上げを意識するようになり、利用者さんの給料を少しでも上げるため、売り上げを上げていくためにスタッフが企業への営業や交渉を積極的に行うようになった」と述べました。



異業種交流会へ参加するなど、 一般企業に対し積極的に 働きかけ

最 後に、ハローワークや福祉業界だけでなく、一般企業とのネットワーク作りの重要性に触れ、「一般企業の人は、(福祉業界の)われわれが思っている以上に、福祉のことを理解していない。民間企業が集まる異業種交流会へ参加するなどして、積極的に働きかけることで可能性は大きく広がる」と締めくくりました。



業界全体の課題をテーマに 四つのグループで 白熱した議論

参 加者全員参加のグループ討議では、以下の三つの議題について、四つのグループに分かれて意見交換を行いました。当グループからは、代表島野のほかスタッフ4人が参加しました。

参加者は、それぞれの現場での経験や実践などをもとに各議題について活発な意見が飛び交いました。就労支援の取り組みや課題については「何のために働くのか?をしっかりと話し合い、意識付けを行っている」「企業側のニーズを把握して良好な関係を築き、利用者が働きやすい環境づくりを行っている」「一般就労したことがないかたは、どんな仕事をしたいか分からない。企業への見学や実習が必要」「就労支援のスキルをスタッフが向上していく。履歴書の書き方やビジネスマナーをスタッフが知らないと、利用者への支援はできない」など、各グループとも白熱した議論が続きました。

定着支援については、「利用者さんをしっかり理解することが大切。その人の長所や体調に合わせて作業内容を決めていく」「『就職したら終わり』ではなく、週一や月一訪問して、企業、利用者そしてスタッフで話し合いをして支援していく」「フリーダイヤルを設けていつでも相談しやすい環境をつくる」「本人がやりたいことを選んで仕事することで長く続けられる」など、参加者同士がそれぞれの話に耳を傾けつつ、意見を出し合っていた姿が印象的でした。

意識の高い参加者のかたが多く、講義中もグループ討議中も、それぞれの事業所運営に活かすために熱心にメモを取る姿が随所で見受けられました。業界全体課題への各事業所の取り組みなど、有益な情報を共有することができた意義深い機会となったのではないのでしょうか。

当グループはこのような機会があれば、今後も積極的に関わっていきますのでその際は改めて当紙面で報告します。